

町史だより

平成28年度『八重瀬町史』の取り組み

■戦争編■

座談会／聞き取り調査／証言を基にした戦争遺跡の現地調査など

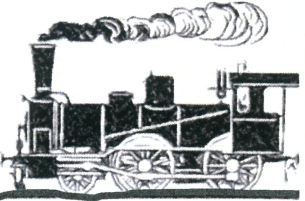
■移民・出稼ぎ編■

世界のヤエセチユ対象の町内ツアー／聞き取り調査／移民名簿の収集など

■言語編■

聞き取り調査

発行：八重瀬町教育委員会 発行日：平成29年6月
問合先：八重瀬町字具志頭352番地（具志頭歴史民俗資料館内）
TEL：098-835-7500 FAX：098-835-7501



八重瀬町教育委員会では、先人の歩んだ歴史を調査・記録し、本町の文化的な発展に寄与することを目的に『八重瀬町史』の編纂事業を行っておりますが、未だに情報が不足しております。八重瀬町が誇る歴史や文化を遺すためにも町民の皆さまの調査・資料収集へのご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

八重瀬町の戦跡マップ（旧具志頭村）

※八重瀬町史「戦争編」は、聞き取り調査で集めた情報を基に現地へ赴き、地図を作成しています。日本軍の陣地があった場所や住民が避難したであろう壕の場所、そのほか疎開先でのお話など未だ情報が不足しています。これら以外の事でも情報や資料などのご提供が可能な際は、ご協力をお願いします。

※平成28年度の調査の一部を参考に作成しました。

日本軍の食糧集積所

ここに集められた食糧は、日本軍から指示を受けた地域住民が、運玉森に居た部隊に届けたそうです。



新城分教場

戦前は周辺地域の小学校低学年生が通う学校でした。戦時中に日本軍の部隊兵舎として利用されました。現在、跡地には「具志頭尋常高等小学校新城分教場跡地」の碑が建てられています。

具志頭国民学校

昭和19年7月から兵舎として利用されるようになりました。具志頭、新城、玻名城の民家や公民館を仮校舎にし、子ども達は授業を受けていたそうです。

前の山(メヌヤマ)一带

お墓やいくつもの自然洞穴があり、戦時中は多くの人々が避難しました。

世持井(ユムチガー/アハガー)

周辺地域の共同井戸でしたが、戦時中は軍・民の飲料水の調達場所として利用されました。

避難した海岸

海岸沿いは絶壁となっており、戦況の悪化で追いつめられた人々は、その岩陰に避難しました。しかし、ここでも多くの人が命を落としました。



山川防空壕群

周辺地域の住民が避難場所として人工的に造った避難場所です。複数の横穴が見られますが、現在では一部しか残っていません。



長毛特攻艇秘匿壕

日本軍が雄樋川沿いに造った特攻艇の基地とですが、実際の戦闘では使われていなかったそうです。



具志頭浜特攻艇秘匿壕

日本軍が白水川沿いに造った特攻艇の基地で、当時は複数の壕があったそうですが、現在では1基のみ確認できました。



陣地跡(宇安里)

日本軍によって造られた陣地だとみられます。兵士が1人隠れるタコツボを1基確認できました。